

乙姫城

妻木の文化財展迫る！

本年も妻木の歴史と文化財を多くの方々知っていただくために十一月二日(日)に文化財展を行います。(ただし妻木小学校の妻木城主の時代展・八幡神社の文化財展のみ三日(月)続けて公開します。)

火縄銃の実演とよらい武者行列

(一日 妻木小学校校庭スタート)

戦国時代の雰囲気をもくの方に感じていただき、少しでも郷土の歴史に興味を持っていただきたいと思います。この地方では唯一の火縄銃の実演となります。尾張田付流古式砲術保存研究会の皆様にご協力により実施します。尾張田付流は田付兵庫助源影澄を流祖とし、尾張徳川家の御家流として代々田付兵庫助を名乗り鉄砲指南役として尾張徳川家に仕えました。尾張田付流保存研究会は砲術の保存と調査研究や啓蒙活動を目的に地元名古屋をはじめ各地で活躍しております。

今回のイベントは、妻木城主妻木家頼が関ヶ原の合戦に際して西軍岩村城主田丸氏を撃破した故事をイメージ

妻木城址の会

〒509-53

土岐市妻木町3051-1

八幡神社社務所内

TEL0572-57-6441

して行います。慶長五年八月十二日夜半、東軍に属する妻木城主妻木家頼は、土岐口にて西軍岩村勢を待ち伏せ、妻木川を渡る敵に鉄砲を打ちかけました。その後高山城落城、鶴ヶ城の攻防と続きます。

武者行列は、鉄砲隊に「親子鎧作り教室」に参加した地元の子供達が加わり八幡神社まで凱旋行列を行います。八幡神社では火縄銃の実演や古式流鏑馬の披露が行われます。

また八幡神社にて鉄砲隊や、木曾馬にまたがったの記念写真撮影会を予定しておりますのでご家族連れでお出かけ下さい。

展示部門

妻木城主の時代展

(一・二・三日 妻木小学校(土)・(日)会場)

「妻木城跡から出土した遺物」

妻木城御殿跡付近から出土した陶器・瓦などを展示します。学術的な発掘が行われておりませんので、詳細はわかりませんが、妻木城築城の考察の一助になると思われれます。

「戦国時代の武器」

長久手町在住の野村忠志氏の御協力により戦国時代の武器を展示します。当時の武士の様子をしるには絶好の

機会です。

崇禪寺の虫干し

(二日 崇禪寺 雨天の場合は中止)

崇禪寺は文和三年(一二三四)に美濃守護土岐頼貞の孫にあたる土岐明知彦九郎頼重が建立しました。崇禪寺には代々の城主の位牌をはじめ、多くの文化財が残されています。主なものは夢窓国師筆「果山」、此山妙在墨跡、妻木頼忠・妻木家頼父子の画像などがあります。

八幡神社の文化財展(二・三日 八幡神社)

八幡神社は妻木城主の氏神として、社殿再建の記録である棟札をはじめ多くの奉納品が残されています。主なものに妻木家頼願状、刀剣「朝露」、妻木家頼所領の甲冑などがあります。

妻木城跡御殿跡

県史跡に指定されている妻木城は、土岐明智彦九郎が築城したと伝えられています。石垣、土塁などが残されており、秋の一日ゆっくりと散策下さい。



下刈り作業参加のお願い

十月二十六日(日)に妻木城の下刈り作業を実施します。多くの方に御協力をいただきたいと思いますので、御参加いただけますようお願いいたします。

期日 十月二十六日(日)午前九時より

集合場所 妻木城御殿跡看板前

鎌など作業道具をご持参下さい。

絵はがき配布のお知らせ

「歴史の町 妻木」第二集を制作しました。文化財展当日より会員の皆様に一部配布いたします。

配布場所

十一月二・三日は妻木小学校ワークスペースにて
以降は八幡神社社務所にて

内容は崇禪寺八幡神社が所蔵する妻木城主に関わる文化財八点組です。

なお一部五百円にて販売もいたします。第一集は残りわずかとなりました。この機会にどうぞ。

文化財展ボランティア募集

文化財展の準備及び当日に手伝っていただける方を募集しています。詳しいことは事務局へお尋ね下さい。

土岐明智氏の歴史(一)

美濃源氏土岐氏の流れ

美濃国に土着した源氏の中で、最も繁栄したのが土岐氏である。平安時代末期に土岐地方に本拠を移し、美濃国内に多くの一族を配し勢力を拡大した。室町時代には美濃尾張伊勢三ヶ国の守護として最盛期をむかえる。しかし次第に力をなくして家臣の斎藤道三に滅ぼされる。

土岐明智氏(沼田城主土岐氏)の歴史

後に沼田藩三万五千石の大名となる土岐氏は、土岐氏の一族土岐明智氏である。足利尊氏に従った美濃守護土岐頼貞の孫土岐明智彦九郎頼重が沼田土岐家の初代となる。江戸時代に大名になるまで土岐明智氏は、土岐明智菅沼、土岐と姓を変えて戦国時代を生き延びた家系である。

土岐明智(明智)を称した時代

頼重 美濃の守護である祖父土岐頼貞から土岐明智彦九郎頼重が領地を譲られたのは暦応二年(一三三九)年である。この書状は現在も残されており「妻木郷」がその領地であったことがわかる。

足利直義下文(土岐文書)

下 土岐彦九郎頼重

可令早領知美濃國妻木郷

多藝庄内多藝嶋榛木地頭

職事

右任祖父土岐伯耆守頼貞

法師法名存孝今月十七日讓狀可令

知行之狀如件以下

曆應二季二月十八日

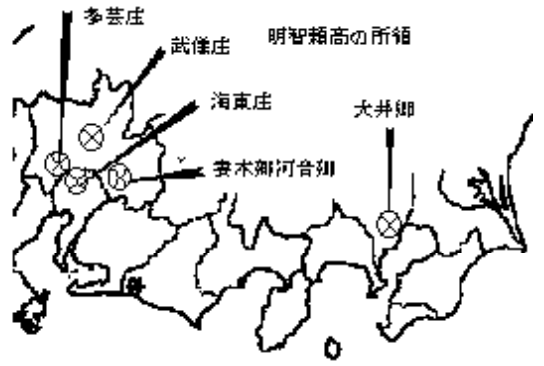
源朝臣(花押)

頼重は妻木城を築き、菩提寺として崇禪寺を氏神として八幡神社を建てた。妻木は土岐氏の本拠「大富館」の南方で三河尾張方面の押さえとして重要な位置にある。美濃守護は頼貞から頼遠が継ぎ、本拠地を京に近い岐阜市周辺に移した。以後土岐地方は妻木城主土岐明智氏が最大の豪族となる。

明智頼重は足利氏に従いその所領を増やしてゆき、本家である守護土岐氏の配下ではなく独立した形で室町幕府に仕えた。

土岐文書には土岐明智あるいは明智と記されており、以後明智氏と記す。

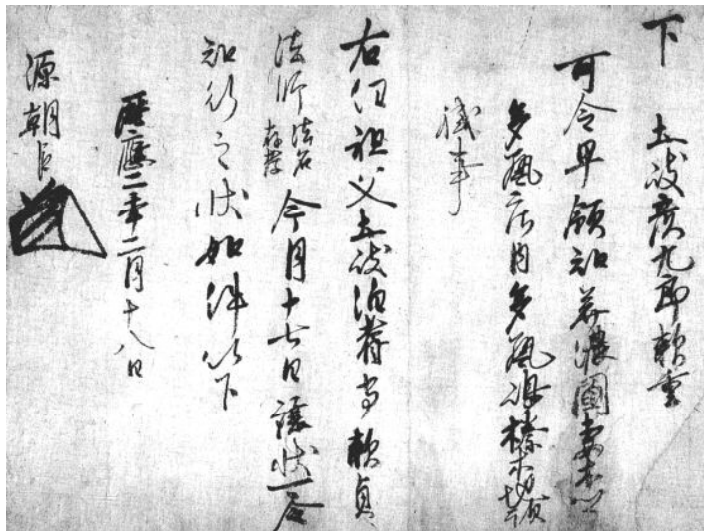
頼高 文和四年(一三五五)頼重の死後弟頼高が明智氏を



尾張国海東庄・天龍寺領を除く(愛知県稲沢市付近)
 武蔵国大井郷不入詭村(東京都大田区)など各地に分散
 していた。
 頼高の死後、明智氏は頼重の子氏王丸(頼篤)に相続さ
 れる。明智氏の所領は次第に侵略され、妻木周辺の地域
 に限定されてくる。



繼承する。
 土岐文書によれば頼高の所領
 は
 妻木郷の内笠原半分・曾木
 村・細野村(土岐市土岐郡笠
 原町)
 多芸荘内春木郷(岐阜県大
 垣市養老郡付近)
 高田内河合郷(土岐市泉町)
 武儀荘内野所・安弘見・加
 藤郷、伊川郷(岐阜県関市付
 近)



足利直義下文 土岐文書

